

# 知事随想



奈良県知事 荒井正吾

## 歴史に学び、そして未来へつなぐ 「平城遷都1300年祭」

### 奈良のチカラを体感

今年、我が国の本格的な首都「平城京」が誕生してから千三百年に当たります。奈良県では、このことを記念して、千三百年の間、歴史・文化が連綿と続いてきたことを皆でお祝いし、改めて感謝し、未来の安寧をお願いするとの趣旨で、一年を通して多彩な行催事を展開する「平城遷都1300年祭」を開催しています。

奈良は仏像や建造物、自然という魅力的な素材や要素が豊富です。飛鳥・桜井、葛城、吉野周辺の県の南部地域は更に古い歴史があります。訪れた方々にそうした奈良の魅力を味わってもらい、気持ちよく帰っていただくことが、このお祭の最大の目標です。「奈良は奥が深い」「南部の方も魅力的だ」と思っていただけのように、おもてなしの心を持ってお迎えし、奈良への再訪につながるようによければと思います。

### 東アジアとの交流

奈良は古くから中国・韓国はもとより、シルクロードを通じて東アジアとも交流があり、特に奈良時代は、日本の歴史で一番活発に海外と交流を展開していた時代でありました。今、グローバル化の時代を迎えて、現在まで連綿と続く国家の基本的枠組みを構築し、当時、大陸から伝わってきた社会的制度や生活様式などのさまざまな文化を、長い時間をかけて融合・発展させてきた先人の苦勞を思い起こしつつ、今後の我が国と東アジアの平和と発展の土台を築き、その道筋を確立するため、中国や韓国とゆかりの深いこの奈良から、東アジアとの交流を提唱することは、東アジアの平和と繁栄に、多少なりとも貢献できることでもあるように感じています。

そうしたことから、「平城遷都1300年祭」を記念し、我が国及び東アジア諸国の良好な関係に資する一連の会合「東アジア未来会議奈良2010」を奈良で開催いたします。その中心的会合となる「東アジア地方政府会合」では、東アジア地域の安定的発展と友好・信頼

の構築を目指し、歴史的、地域的に関係の深い日本、中国、韓国の地方政府が中心となって継続的に会合を開催し、地方政府同士が抱える、高齢化や農業、都市の問題や地域格差の問題など、共通のテーマ課題について幅広い討議を行ってまいります。

### 奈良の未来を創る

奈良県は、経済・産業・雇用・道路整備など、いろいろな面で遅れているところがありますので、政権交代後も国からの変わらぬ支援をいただければと思っておりますが、何よりも「地域のことは地域で解決する」気構えで、県政に取り組むことが重要と認識しています。「県政の方向はオリジナルなものを柔軟な頭で考え、国の財源・情報などは、できるだけ多く活用させてもらう」という姿勢で、県政発展に尽力したいと思っております。

大切なのは、課題を何とか解決し、県民のくらしを良くしたいという願いを持つことだと思っております。「こうあればいい」「これをやりたい」という願いを、県庁組織の垣根を越えて集結し、「県民の願い」として取り組んでまいります。

まず、「平城遷都1300年祭」を無事終えた後は、このお祭が奈良の観光振興の起爆剤となり、これからの奈良観光の持続的な発展につないでいきたいと思っております。

また、これまでの奈良の発展は「ベッドタウンとしての奈良」に大きく依拠してきましたが、今や転換点に立っていると認識し「ポストベッドタウン奈良の経済発展」に取り組みたいと考えています。奈良らしい産業活性化と良質な雇用の確保を目標に「奈良で暮らし、奈良で働く」地域への脱皮を目指したいと思います。そのためには、並行して、高速道路の整備がどうしても必要です。奈良は高速道路の総延長が、同じ内陸の八県と比較しても一番短く、地域の活性化のためにも、整備が急務です。

さらに、いつも北部との格差が指摘されることの多い南部地域の活性化も大きなテーマにしたいと思っております。その対策の一つとして、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を生かし、和歌山・三重両県と「(仮称)吉野・高野・熊野の国」を建国していききたいと考えています。

私たち奈良県民には、千三百年前、国づくりに力を尽くした先人の未来を切り拓く力が受け継がれています。県民の幸せを実現することを基本に、「奈良県を良くしたい」という強い思いで、常に県民の視点に立って施策を進め、県民から信頼される県政を更に発展させるべく、全力を尽くしてまいります。

